



「避難」って
何をすれば
いいの？

小中学校や公民館に行くことだけ
が避難ではありません。
「避難」とは「難」を「避」けること。
下の4つの行動があります。
.....



行政が指定した避難場所
への立ち退き避難

- 指定避難所へ避難する際は、マスクの着用や検温などの感染予防対策をしましょう
- マスク、消毒液、体温計、スリッパなどを携行しましょう



安全な親戚・知人宅
への立ち退き避難

- 普段から災害時に避難することを相談しておきましょう
- ※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう



普段から
どう行動するか
決めておき
ましょう

安全なホテル・旅館
への立ち退き避難

- 事前に予約・確認をしましょう(予約はご自身で行ってください)
- 通常の宿泊料が必要です(宿泊料は自己負担)
- ※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう



屋内安全確保

- ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し、自宅にいても大丈夫かを確認しましょう
- ※土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です



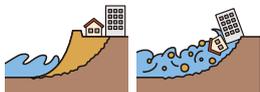
「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅にとどまり、安全を確保することも可能！

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない



入っていると...

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります。



地面が削られ、家屋が建物ごと崩壊するおそれがあります。

② 浸水深より居室が高い

3・4階	5m～10m未満 (3階床上浸水～4階軒下浸水)
2階	3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水)
1階	0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分ある

十分じゃないと...

水・食糧・薬などの確保が困難になったり、電気・ガス・水道・トイレ等が使用できなくなったりします。



※豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむを得ず車中泊する場合は浸水しないよう周囲の状況を十分に確認してください。